

新しい学習指導要領と新しい「教科書観」は、  
新しい形の教科書を求めています。

# 『小学生の国語』の特徴

## 1 質・量ともに格段の充実

平成20年12月 教科用図書検定調査審議会報告「教科書の改善について」より(抜粋)

○ 教育基本法等に示される教育の理念・目標や学習指導要領の内容等は、教科書に記述されることによって、初めて目に見える形で実現されるものである。新しい教育課程の実現のため、教育基本法の改正や新しい学習指導要領を的確に反映し、新しい教科書観に立った、内容豊かで読み応えのある、質・量ともに格段に充実した教科書に向けて改善方策の検討が求められる。

## 2 「教科書の内容はすべて学習しなければならない」という考え方からの転換

平成20年12月 教科用図書検定調査審議会報告「教科書の改善について」より(抜粋)

○ 多くの教員や保護者の間に定着している、「児童生徒は、教科書に記述されている内容をすべて学習しなければならない」とする、従来型の教科書観については、「個々の児童生徒の理解の程度に応じて指導を充実する」、「児童生徒が興味関心を持って読み進められる」、「児童生徒が家庭でも主体的に自学自習ができる」といった観点から、教科書に対する考え方を転換していくことも求められる。

## 3 児童自身が学習の見通しを立てたり、学習を振り返ったりできる

平成20年1月「小学校学習指導要領 総則」

「指導計画の作成等に当たって配慮すべき事項」より(抜粋)

○ 各教科等の指導に当たっては、体験的な学習や基礎的・基本的な知識及び技能を活用した問題解決的な学習を重視するとともに、児童の興味・関心を生かし、自主的、自発的な学習が促されるよう工夫すること。  
○ 各教科等の指導に当たっては、児童が学習の見通しを立てたり学習したことを振り返ったりする活動を計画的に取り入れるよう工夫すること。

そうした要請に応えるためには

全員(一斉)授業で  
1年間を通して使う

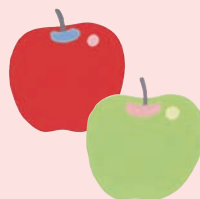


『小学生の国語』

一人一人の学習に応じ、  
さまざまな場面で使う



『小学生の国語 学びを広げる』



新たな形の国語教科書で、以下のような学びを実現します。

●1年(上下巻構成。それぞれの巻末に「まなびをひろげる」を収録。)

1年生は、国語の学びを無理なく自然にスタートできるよう、1年間で半年で区切る上下巻構成としました。



●2年～6年(『小学生の国語』と『学びを広げる』の2冊を、1年間並行使用。)

